



2019年6月

今後12カ月のグローバル経済
および投資環境の見通し



DWSの見解

マクロ経済

- 米国では新たな政策提案によって、良好な経済を牽引してきたテクノロジー企業に対する圧力が高まっている。
- しかし、経済合理性や自国の利益を犠牲にするような政策変更にはならないと考えている。
- 今のところ、我々は成長予測を大きく引き下げるには至っていないが、市場の懸念材料は成長だけではないということに注意を払う必要がある。

債券

- 米国において、今のところ政策金利引き上げの見込みはなくなり、市場は既に年内の引き下げを期待している。
- 我々はほとんどの国債のイールドが横ばいになると見通している。よって、米国債が再び面白くなる。
- 米国以外では、魅力的なイールドを有する社債と新興国債券に注目している。

株式

- 年初来の株式市場の回復と、貿易摩擦の悪化という2つの側面から、短期的には株式のリスク・リワードは魅力的ではない。
- 短期的には米国の貿易摩擦に加え予算プロセスによってボラティリティがさらに高まる可能性がある。
- 今後12カ月間で、企業も投資家も世界的な新しい政治環境に慣れていき、市場は高値に向かうと見通している。

オルタナティブ

- セカンダリー市場が拡大し、未公開株式のアセットクラス全体の流動性が増している。
- 直接投資とセカンダリー投資の双方に投資妙味があると考ええる。
- 既存のプライベートエクイティファンドが保有する銘柄の中で、レイトステージ(成熟段階)にある企業へ選別的に投資する戦略が有効だと思われます。

マルチアセット

- ほとんどのアセットクラスは年初強気であったものの、リターンは既に色あせてしまった。ただし、マルチアセットの運用にとっては、年初も今も状況は厳しいと言える。
- 貿易摩擦の激化、低金利、株式市場のバリュエーションの高さなどに鑑み、今年の夏はより守りのアロケーションが必要となろう。

ESG(環境・社会・ガバナンス)

- 欧州議会の直近の選挙では、多くのEU加盟国において環境主義を掲げる政党が議席を大幅に伸ばした。
- 欧州議会の貿易における役割の拡大や、気候変動目標を追求する断固とした姿勢を考えると、EU以外の世界においてもこの影響は大きい。
- もちろん、EUにおける政策の方向性の変化がどの程度持続するかについては現時点ではまだ明らかではない。

貿易協議から貿易戦争へ、そして協議再開か

米中間の貿易協議は当面の経済に大きな影響を与えるものではないものの、
我々の戦略的見通しには重荷となっています。

“貿易戦争の激化の勢いがとまらず、主要プレイヤーでさえも収拾を付けられなくなる恐れが出ています。今までに取られた措置はおそらく意図していなかった結果を生み出しており、その影響もはっきりとはしません。この問題が我々の見通しに大きな重荷となりつつあります。”

ステファン・クロイツカンフ
チーフ・インベストメント・オフィサー



4月には市場関係者の間で米中間の貿易協議の解決に向けた期待が高まりました。しかし、様々な報復措置の応酬もあり、問題は衝突から貿易戦争という新しい次元に移ってしまったのです。米国側は、この衝突が単なる輸入関税や貿易黒字の問題なのではなく、テクノロジーをめぐるグローバルな覇権争いであるということを明確にしています。危機が高まる中、米中双方の最近の発言や行動によって、お互いの対面を保ちつつ沈静化を図ることがいっそう難しくなっています。中国側は「主権の侵害」や「中国の名誉に対する攻撃」に抗議する声明を出しており、中国政府が協議の激化を認めていることを示しています。¹ 一方で、米国による追加的な制裁は明らかな挑発行為となります。² トランプ大統領も短期的な解決に関心を持っていないと我々は考えています。衝突がくすぶり続け、中国に対して厳しい態度を取れば、それだけ再選の可能性が高まると考えられるからです。米国では現在、中国に対する締め付けを緩めるべきではないという党派を超えた社会的コンセンサスができているのです。

よって、2019年は米国と中国が(テクノロジーの)グローバルな覇権をめぐる初めて意図的に戦った年として歴史に残るという可能性も否定できません。多くの米国の政治家も中国の政治家も、もはやこの見方に異を唱えることはないでしょう。

では、資本市場はどのように見ているのでしょうか？5月後半の数日間に大きな売りがあったにもかかわらず、取引所の中には月末時点で依然として史上最高値に近い水準で取引していたところもありました。このような平穏さは希望的観測なのでしょうか？または、貿易協議からくる政治的な雑音が経済に対する実際的な影響に比べると大きすぎることなのでしょう？世界貿易は不可欠なものです、貿易協議によって引き起こされた世界貿易の鈍化は、当面の世界経済にあまり大きな影響を及ぼしていません。ほとんどの貨物が迂回貿易されているためです。また、中国と米国の外国貿易は国内総生産(GDP)のそれぞれ20%と13%を占めるにとどまっているように、両国の経済が比較的閉鎖的であることから、少なくとも短期的には、世界の二大経済である両国に対する影響は考えられているほど深刻ではないものとなります。米中そのものが激突によってあまり傷を受けていない中で、より開かれた経済である韓国やドイツは、不幸な傍観者として打撃を受けています。一方で株式については、前回の急落でも見られたように、個別セクターや個別企業が打撃を受けています。ただ、長期にわたる政治的解決がますます難しくなると考えても、マクロ経済のレベルではグローバル成長は今後12カ月の間は維持され、大きく崩れることはないでしょう。

¹ 記事の例: <https://www.scmp.com/news/china/diplomacy/article/3011832/arrogant-demands-us-invade-chinas-economic-sovereignty-state>

² 中国個別企業に対する様々な制裁; 米国と台湾の関係強化

懸念すべきは、今までと今後の制裁が及ぼす直接的な影響なのではなく、間接的な影響のほうです。貿易戦争の深刻化を受けて、消費者や企業の心理が悪化する恐れがあります。製造業関連のデータにはその兆候が既に表れており、貿易協議の結果として製造業関連のデータはこの数カ月で悪化し続けています。

一方で消費者の購買意欲は今のところ高止まりしています。ただし、これも関税が価格の引き上げにつながると水を差されることになるでしょう。財政状況も貿易問題の間接的な影響を受けることになります。リスクプレミアムが高まると財政状況が悪化し、株式市場の下げ圧力となることもあるでしょう。しかし、市場に対する打撃にはメリットもあります。つまり、米国株式市場の下落が米国大統領の非伝統的な政策の修正に対する最も有効な手段となっているのです。これは「トランプ・ブット」とも呼ばれるものです。³

我々は経済全般に対して引き続き楽観的な見方をしています。前よりは若干警戒するようになったものの、今年の成長予測については0.1%の引き下げにとどめ、3.4%としています。我々の見通しでは、米連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利の追加引き上げを手控え、インフレ圧力は引き続き穏やかなものに留まるでしょう。資本市場は理想的なゴルディロックスシナリオの状態に戻れることになりそうです。しかし我々は熱狂からは程遠いところにおり、これは貿易戦争だけが理由なのではありません。欧州においては、英国の欧州連合(EU)離脱、イタリアの予算をめぐるEUとの対立、ポピュリスト政治といったものが大きな懸念です。また、中国では再び経済を支えるための景気刺

激策が必要であり、中国と米国の企業セクターの債務状況は危機に対処できるほど盤石にはなっていません。よって、我々の楽観的なメインの予測シナリオは今までよりはリスクにさらされるようになっているのです。今後数カ月で市場は神経質になると予測しています。このような理由から、我々はインカム収益に注目しています。

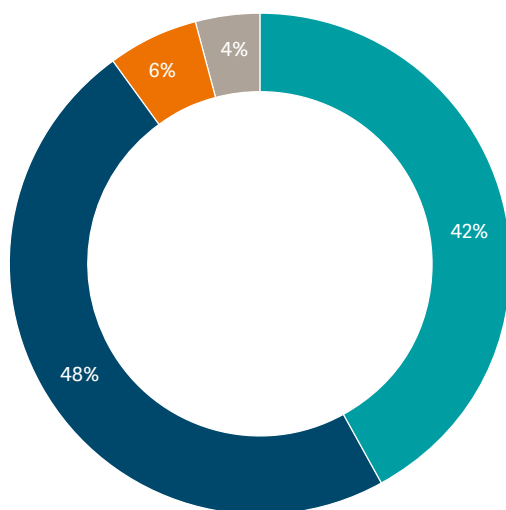
個別のアセットクラスについて見ていきましょう。米国債の利回り上昇は期待しておらず、欧州債の利回りは若干上昇すると見えています。各国中央銀行が政策金利について慎重なペースで対応すると発表していることから、米国債のリスク・リターン特性は引き続き好調です。欧州債については低金利や場合によってはマイナス金利ということからも好調であるとは言えませんが、市場が悪化した場合のプロテクションにはなります。我々は社債に対して引き続き前向きな見方を保持していますが、米国ハイイールド債については非常に選択的になっています。新興国債券に対しても引き続き前向きですが、このアセットクラスは短期的に貿易協議のマイナスの影響を受ける可能性があります。米ドルについては、今後12カ月は横ばいトレンドになると予測しています。一方で中国元については、貿易黒字の縮小が下げ圧力となる可能性もありますが、中国政府は通貨の大幅な下落を許容しないと想定しています。株式は低金利環境からの恩恵を当然受けるものですが、今春の上昇以降、ほとんどの指標が適正なレベルに近づいていると考えています。株価上昇の可能性は、現在、金融危機以降最低レベルにあると考えています。一方で地域的には、米国株と新興国株を好みます。

我々の今後12カ月の見通しにつきましては、「DWSの見通し」をご覧ください。

³ いわゆる「グリーンспан・ブット」に由来

欧州の投資家向けアセットアロケーション

夏に向けて、リスクは避けて現金を手元に置くべきでしょう。

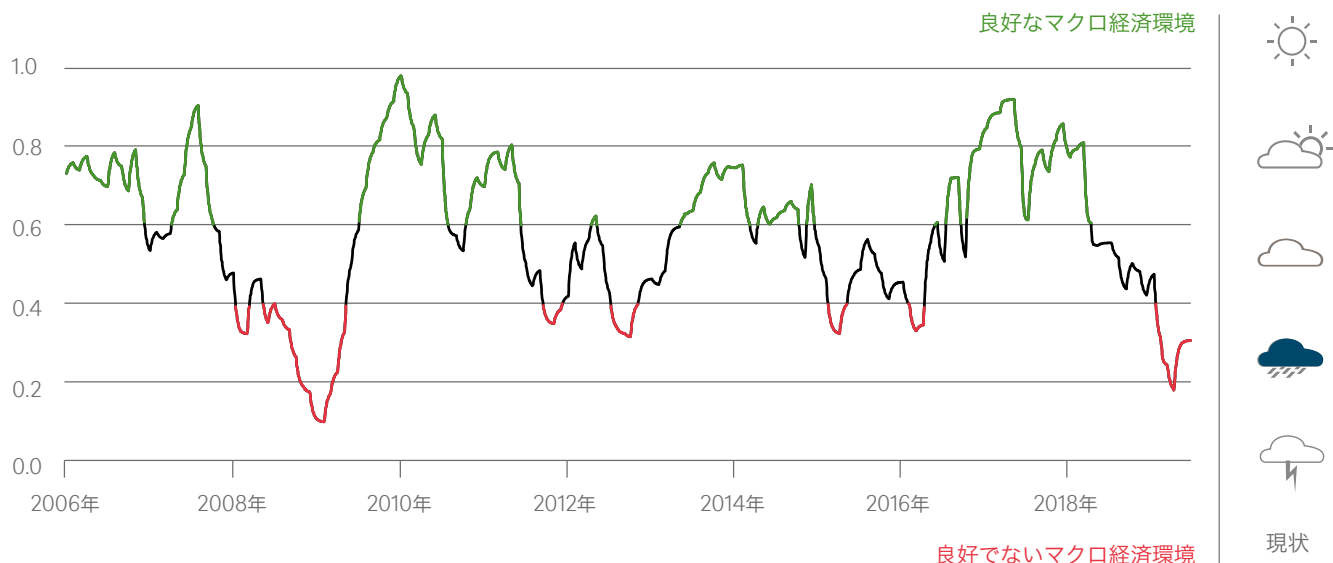


株式	42%
米国株式	23%
欧州株式	5.5%
新興国株式	5%
グローバル株式	5%
日本株式	3.5%
債券	48%
ユーロ投資適格社債	13%
ユーロ圏ソブリン債	13%
米国国債	8%
新興国(主要通貨建) 債券	7%
ユーロ・ハイ・イールド社債	5%
米国ハイ・イールド社債	2%
オルタナティブ	6%
コモディティ	3%
転換社債(ユーロヘッジ)	3%
現金	4%

出所：マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2019年5月31日時点

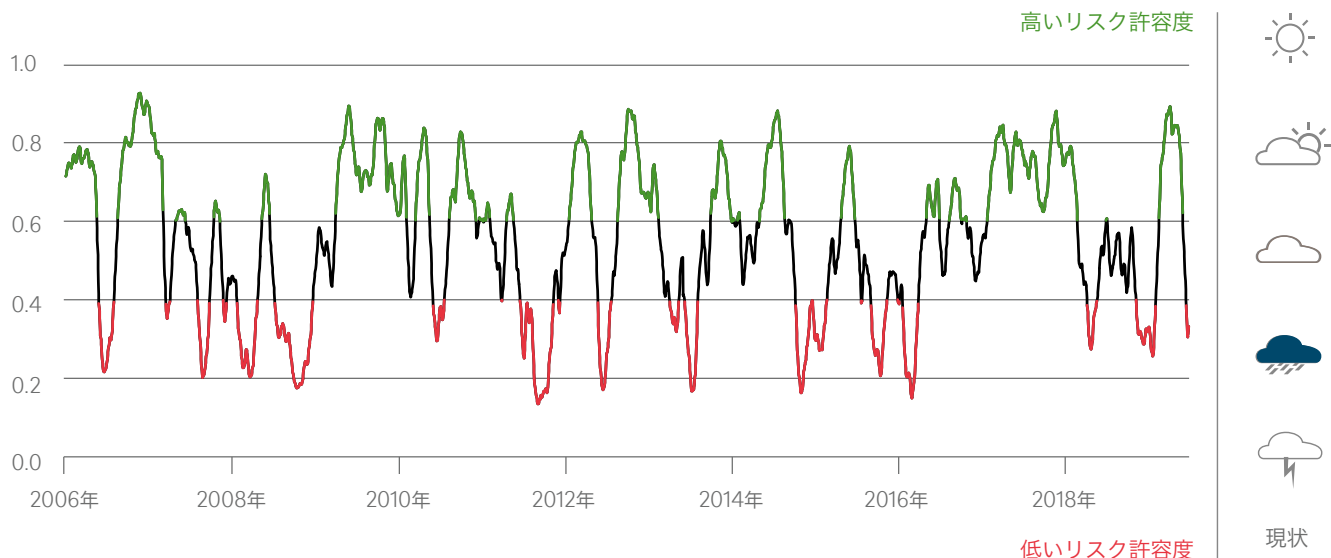
上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。オルタナティブ投資には様々なリスクが伴うため、すべてのお客様に適しているものではありません。また、すべてのポートフォリオに適しているものではありません。

マクロ経済指標 / マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。

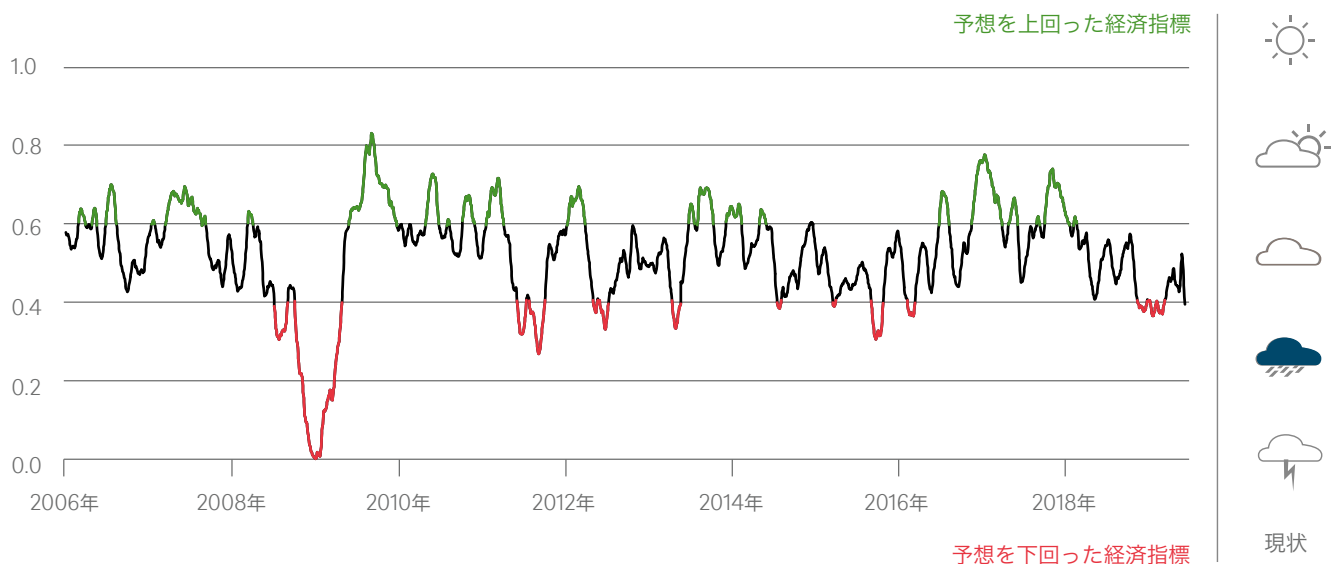


当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年6月19日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

リスク指標 / リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標 / サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所: DWSインベストメントGmbH、2019年6月10日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年6月19日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

マクロ経済／最悪の状況からは程遠い

GDP成長率(対前年比、単位：%)

地域	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	2.5	↘	2.0
ユーロ圏	1.2	→	1.2
英国	1.4	↗	1.5
日本	0.5	↗	0.6
中国	6.0	→	6.0
世界	3.4	→	3.4

財政赤字(対GDP比、単位：%)

地域	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	4.4	→	4.4
ユーロ圏	0.8	↘	0.7
英国	1.8	↘	1.4
日本	3.1	↘	2.4
中国	4.8	↘	3.8

消費者物価指数(単位：%)

地域	2019年(予測)		2020年(予測)
米国 ¹	1.9	↗	2.0
ユーロ圏	1.4	↗	1.5
英国	1.8	↗	2.1
日本	0.9	↗	1.7
中国	1.5	↗	1.8

経常収支(対GDP比、単位：%)

地域	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	-2.7	↗	-2.6
ユーロ圏	2.9	→	2.9
英国	-3.5	↗	-3.2
日本	3.8	↗	4.1
中国	0.6	↘	0.2

指標金利(単位：%)

地域	現在値*		2020年6月(予測)
米国	2.25-2.50	↘	1.75-2.00
ユーロ圏	0.00	→	0.00
英国	0.75	↗	1.00
日本	0.00	→	0.00
中国	4.35	↘	4.10

商品市況(米ドル建)

	現在値*		2020年6月(予測)
原油(WTI)	58.5	→	60
金	1,410	→	1,400
銅(LME)	5,993	↗	6,400

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年6月28日時点

¹ コアレート、12月個人消費支出(前年同月比)(%)

予測は2019年6月24日時点の見通しです。

WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート

LME：ロンドン金属取引所

当ページ以降の記号表記について

株価指数、為替相場及びオルタナティブ投資：

矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 堅調な推移、(→) 横ばい傾向、(↘) 下落の可能性

債券：

ソブリン債の場合、矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 利回り上昇、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り下落

社債や証券化商品等、新興国債券の場合、矢印は米国国債に対するスプレッド(利回り格差、オプション調整後)の見通しを示します。

(↗) 利回り格差の拡大、(→) 横ばい傾向、(↘) 利回り格差の縮小

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。

↗ ↘ ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性

→ プラスリターンの機会に限定的で、マイナスリターンの可能性もあり

↗ ↘ ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年6月28日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式／現時点では慎重

	現在値*		2020年6月 (予測)		企業利益成長率 (予測)	株価収益率 への影響	配当利回り
			予測値	トータルリターン (予測) ¹			
米国(S&P500種株価指数)	2,942	↗	3,000	4.0%	5%	-3%	2.0%
欧州(ストックス・ヨーロッパ600指数)	385	→	380	2.4%	5%	-6%	3.7%
ユーロ圏(ユーロ・ストックス50指数)	3,474	→	3,370	0.7%	5%	-8%	3.7%
ドイツ(DAX指数) ²	12,399	→	12,300	-0.8%	6%	-10%	3.2%
英国(FTSE100種指数)	7,426	→	7,220	1.9%	3%	-6%	4.7%
スイス(SMI指数)	9,898	→	9,450	-1.2%	7%	-12%	3.3%
日本(MSCI ジャパン・インデックス)	936	↗	970	6.0%	-1%	5%	2.4%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス(米ドル建)	1,055	↗	1,080	5.3%	5%	-3%	3.0%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス(米ドル建)	653	↗	680	6.9%	5%	0%	2.7%

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2019年6月28日時点

¹ トータルリターン(予測)は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。

² トータルリターン・インデックス(配当込)

債券／金利引き上げは終了

米国

	現在値*		2020年6月(予測)
米国国債(10年物)	2.01%	→	2.00%
米国地方債	81%	→	80%
米国投資適格社債	109 bp	→	105 bp
米国ハイ・イールド社債	377 bp	↗	440 bp
証券化商品: モーゲージ証券 ¹	39 bp	→	38 bp

欧州

	現在値*		2020年6月(予測)
ドイツ国債(10年物)	-0.33%	↗	-0.10%
英国国債(10年物)	0.83%	↗	1.50%
ユーロ投資適格社債 ²	124 bp	↘	90 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債 ²	379 bp	→	380 bp
証券化商品: カバードボンド ²	49 bp	→	50 bp
イタリア国債(10年物) ²	243 bp	↗	270 bp

アジア太平洋

	現在値*		2020年6月(予測)
日本国債(10年物)	-0.16%	↗	0.15%
アジア社債	265 bp	→	265 bp

世界

	現在値*		2020年6月(予測)
新興国ソブリン債	344 bp	↘	330 bp
新興国社債	330 bp	↘	300 bp

通貨

	現在値*		2020年6月(予測)
ユーロ(対 米ドル)	1.14	→	1.15
米ドル(対 日本円)	108	→	107
ユーロ(対 英ポンド)	0.90	→	0.88
英ポンド(対 米ドル)	1.27	→	1.30
米ドル(対 中国元)	6.87	→	7.00

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年6月28日時点

¹ ブルームバーグ・バークレイズMBSフォワード・インデックス

² ドイツ国債に対するスプレッド

予測は2019年6月24日時点の見通しです。

bp=ベースポイント

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年6月28日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

パフォーマンス / 概要

過去12カ月毎のパフォーマンス

	2014年5月 -2015年5月	2015年5月 -2016年5月	2016年5月 -2017年5月	2017年5月 -2018年5月	2018年5月 -2019年5月
アジア社債	1.9%	3.2%	-12.8%	7.6%	8.5%
DAX指数	14.8%	-10.1%	22.9%	-0.1%	-7.0%
新興国ソブリン債	2.5%	4.5%	9.8%	-0.6%	7.5%
新興国社債	3.3%	2.2%	9.0%	0.2%	8.4%
ユーロ・ハイ・イールド社債	5.4%	0.6%	9.5%	1.5%	2.2%
ユーロ投資適格社債	4.3%	2.0%	2.8%	0.6%	3.1%
ユーロ証券化商品：カバードボンド	4.7%	1.8%	0.2%	0.2%	2.6%
ユーロ・ストックス50指数	10.1%	-14.2%	16.0%	-4.2%	-3.7%
FTSE100種指数	2.0%	-10.8%	20.7%	2.1%	-6.7%
ドイツ国債(10年物)	7.5%	4.4%	0.0%	0.8%	5.0%
ICE BofAメрилリンチ米国ハイ・イールド・インデックス	1.8%	-0.9%	13.9%	2.3%	5.4%
イタリア国債(10年物)	10.2%	6.6%	-2.5%	-2.9%	6.2%
JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス	0.5%	6.3%	8.9%	-3.7%	6.2%
日本国債(10年物)	2.5%	4.7%	-1.2%	0.4%	1.5%
Markit iBoxxユーロ建リキッド・ハイ・イールド指数	3.6%	0.1%	7.4%	0.8%	2.2%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	8.0%	-19.5%	25.1%	14.7%	-13.2%
MSCI AC ワールド・インデックス	3.1%	-7.4%	15.2%	9.7%	-3.3%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	-2.3%	-19.6%	24.5%	11.5%	-10.9%
MSCI ジャパン・インデックス	39.2%	-19.4%	12.5%	10.5%	-11.8%
MSCI ワールド・インデックス	3.7%	-5.9%	14.2%	9.5%	-2.2%
S&P500種株価指数	9.6%	-0.5%	15.0%	12.2%	1.7%
ストックス・ヨーロッパ600指数	16.2%	-13.1%	12.2%	-1.8%	-3.7%
SMI指数	6.5%	-11.1%	9.7%	-6.2%	12.6%
米国ハイ・イールド社債	2.0%	-0.8%	13.6%	2.3%	5.5%
米国投資適格社債	2.8%	3.3%	3.9%	0.1%	7.4%
米国証券化商品：モーゲージ証券	3.3%	2.7%	1.2%	-0.3%	5.5%
米国国債(10年物)	5.0%	4.4%	-0.4%	-2.4%	8.6%
米国国債(2年物)	0.8%	0.7%	0.6%	-0.1%	3.5%
米国国債(30年物)	9.7%	8.4%	-1.6%	0.1%	11.0%
英国国債(10年物)	7.8%	5.5%	5.2%	-0.4%	4.8%

出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年5月31日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年5月31日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

会社紹介

DWSについて¹

すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる

個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供

約7,040億ユーロの運用資産残高(2019年3月末)を誇る世界有数の資産運用機関

チーフ・インベストメント・オフィスについて

DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンフが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす

経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結

グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する

ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

¹ DWSはDWSグループGmbH&Co.KGaA及びその子会社が事業活動を行う上でのブランド名です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料または該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイツ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2019年7月5日に発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・機関投資家向け運用ソリューションの提供における長年の経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

